

温故知新

日野歴史探訪

私たちの住む日野町には、52の大字があり、それぞれの地域が豊かな自然と歴史文化で彩られています。温故知新では、町内各大字の歴史と代表的な文化財をシリーズで紹介していきます。

大字杉

佐久良川上流域に位置する大字杉は、北側は東近江市との境である八日市丘陵が続ぎ、南には佐久良川が流れる大字川原、西は大字杉に接する地域です。

中世には大字杉とともに、杉・杣の一部として推移し、応永28(1421)年の藤切神社(東近江市)所蔵の奉加記録に「梶(杉)杣」の字が見られます(『東櫻谷志』)。

桜谷の東にそびえる竜王山は、水の神である竜神が祀られており、雨乞の山として古来、信仰を集めてきました。谷筋に開かれた桜谷の村々は、生活に欠かすことのできない水を竜王山より流れ出る佐久良川より得ており、川沿いの各村は密接な関係を築いていました。寛文8(1668)年の古文書に、杉・杣・川原の3村による雨乞の記録が残っており、生活の基盤をともにする村同士のつながりを垣間見ることができます。



(東桜谷より望む竜王山)

大字杉の年中行事

多様な民俗行事が展開されている日野町ですが、大字杉においても特徴的な年中行事が行われています。

杉の日吉神社では1月に「山の神祭り」が行われます。「山口祭」とも称され、年初の山入りや、豊作を祈願する予祝儀礼を中心とした初春の民俗行事です。

また「烏勧請」と呼ばれる神事も併せて執り行われています。この烏勧請は

烏が供え物を食べるかどうかによって収穫の豊凶を占うもので、町内有数の特徴的な神事です。(『近江日野の歴史 第六巻 民俗編』)。

他にも、「シヨウライ立て」や「地藏盆」など、人々の生活に根差した年中行事が色濃く伝えられています。

大屋神社の「茅草祭」

杉・杣・川原の氏神である大屋神社では、3大字の合同で7月31日に「茅草祭」が行われています。

祭礼の前日より、神社拝殿において「茅の輪」が作られます。この茅の輪は、直径が2.5メートルほどもあり、芯となる竹に菅を巻き、さらにその上から茅草を巻いて作られます。また併せて、茅草を束ねた団扇形の「草形人形」(天狗のうちわ)が準備されます。

祭礼当日、本殿前での神事が終了すると、用意した茅の輪を用いた神事が

執り行われます。代表の7名が、本殿横に置かれた茅の輪を取り囲むように並び、宮司の合図にならって内側へと入り、草形人形を片手に「三座めでたや」と唱えながら茅の輪を高く持ち上げ、くぐるように外へと出ます。この一連の所作を3回繰り返して、神事が終了となります。

すべての神事の後、この大屋神社においても、茅の輪を鳥居下へと運び、鳥居に渡された竹へとくり付け、茅の輪を立てます。この輪をくぐると、風邪をひかないと伝えられています。

杉に鎮座する大屋神社で、杉・杣・川原の3大字によって執り行われるこの茅草祭は、地域の強いつながりと、人々の無病息災の願いが込められた大切な神事です。



(大屋神社の茅草祭)

◆問い合わせ先

近江日野商人ふるさと館「旧山中正吉邸」

☎0748-52-0008



みんなのとしょかん



本の紹介

『古典モノ語り』 山本淳子／著 笠間書院

古典文学を読んでいると、なじみが薄かったり、今とは意味が違ったりする「物」が時々出てきます。争いの舞台になりやすい牛車、言えない言葉を託した扇など、意味がわかるとより面白くなる「物」について教えてくれる1冊です。



8月						
月	火	水	木	金	土	日
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

9月						
月	火	水	木	金	土	日
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

■…休館日 ○…えいが会 ◇…託児サービス
 ●…おはなし会 □…おひざでだっこのおはなし会



行事予定

※行事・サービスは中止する場合があります。
 『おはなし会』8月5日(土)、12日(土)、26日(土)10:30～(15分程度)
 『おひざでだっこのおはなし会』8月19日(土)11:15～(20分程度)
 3歳くらいまでの親子を対象に絵本や手遊び、わらべうたなどを行っています。
 『えいが会』8月20日(日)14:00～『スパイの妻』2020年/日本(115分)

図書館からのお知らせ

○子どもえいが会

『映画 すみっこぐらし 青い月夜のまほうのこ』

日時：8月20日(日) 10:30～(64分)

場所：視聴覚室

○講演会「ネット情報におぼれない学び方

～こんな時代に、なぜ図書館？なぜ読書？？～

世の中を飛びかう膨大な情報をどう受け止め学ぶか、また、それにどう読書や図書館を活用するかなどについて、お話しいただきます。

日時：8月26日(土) 14:00～15:30

場所：視聴覚室

講師：梅澤真典さん(司書・大学講師)

著書『ネット情報におぼれない学び方』

日野町立図書館

☎0748-53-1644 FAX 0748-53-3068

図書館の本は、お近くの公民館でも返却していただけます

青雲之志

～町長コラム～

日野町長 堀江 和博

私のお盆行事

8月になりました。子どもたちの楽しい夏休みも始まります。今年はコロナ禍の制限もなく、ようやく本来の夏休みとなることをとてもうれしく思います。夏休みには、水辺で遊んだり、キャンプをしたり、旅行に行ったりとさまざまなイベントの機会が増えますが、その中でも「お盆行事」はとりわけ大きな機会だと思っています。

私の地元集落では、お精霊というお盆行事があり、子どものころから参加しています。しょらい山と呼ばれる集落の山に、大きな松明を作り出す。13日の夜に迎え火としてその大松明に火を灯し、その火をそれぞれ

集落各戸のお仏壇の灯明となります。15日未明には送り火として、これと逆のを行います。

夏の夜空に燃え上がる松明の灯には先祖の魂が宿っており、暗闇の中での灯りと、独特な鐘と太鼓のリズムはとても神秘的なものです。私は子どもに、この神秘的な行事によって、「ご先祖様が帰ってきている」ということをしっかりと伝えるようにしています。自身の存在が、自身だけで成り立っているのではなく、連綿とつながってきた先祖・家族のおかげであることを知ってほしいからです。

この体験は、すべては縁でつながっていることを直感的に理解する手助けとなります。先祖を敬うことは、自分自身を敬うことと同義です。先祖供養をすることは厳しい人生を生き抜くための道標になります。いよいよ今年もお盆がやってきます。私も子どもたちと一緒にこの大切なお盆行事を迎えたいと思います。